

激甚災害に備えて 日高中で避難所開設訓練実施



段ボールでベッドを組み立て

東日本大震災のような激甚災害を及ぼす大災害を想定して、2月14日、日立市の主催で日高中学校の体育館を会場に避難所開設訓練が実施されました。日立市と学区自主防災組織との連携強化および運営体制の確認を目的として行われたものです。訓練には日立市役所の担当職員、日高学区、田尻学区の自主防災会、中学校職員の約40名が参加しました。

倉庫内には、いざという時に備え、食料、寝袋、プライバシー保護の間仕切りテント、段ボールベッドなど数多くの機材が保管されていることを確認しました。資機材の取り扱い訓練後は、避難所レイアウト確認訓練です。前述の間仕切りテントを体育館内に組み立てセッティングし、段ボールベッドを配置します。配置は整然と行い、通路の確保などを考慮しました。避難者を受け入れる際は体調が悪い方への配慮や、感染症予防対策を考慮した受付体制が重要であること、避難所開設には、リーダー的な存在の人が全体の取りまとめを行うことが、スムーズな運営に重要であると強く感じました。

あの人 この人

齊藤さい子さん
日高町
(88歳)



詩吟とともに半世紀

小木津生まれの齊藤さんは、長年にわたり小木津の歴史を見てこられました。終戦後、この一帯は杉苗の畑が広がる地域で、育苗の仕事に携わる人も多くいたそうです。

また、日立電線の日高工場ができてからは人口も増加したため、小木津駅から海に向かう現在のゆりの木通りには、生活に必要な商

品を扱うお店が軒を連ね、少し離れた地域からも買い物にくる人々が多くなりました。ここで長年金物屋を営んでこられました。

このゆりの木通りという名称は、今から半世紀近く前の昭和54年、当時の日上市役所が行った道路愛称の名づけの募集に、さい子さんが応募して決まったそう

です。倉庫内には、いざという時に備え、食料、寝袋、プライバシー保護の間仕切りテント、段ボールベッドなど数多くの機材が保管されていることを確認しました。資機材の取り扱い訓練後は、避難所レイアウト確認訓練です。前述の間仕切りテントを体育館内に組み立てセッティングし、段ボールベッドを配置します。配置は整然と行い、通路の確保などを考慮しました。避難者を受け入れる際は体調が悪い方への配慮や、感染症予防対策を考慮した受付体制が重要であること、避難所開設には、リーダー的な存在の人が全体の取りまとめを行うことが、スムーズな運営に重要であると強く感じました。

で、その記念盾がお宅に保存されていました。これまで、手芸、西・和洋料理、生け花と多彩な趣味に取り組んでこられました。中でも詩吟と詩舞は半世紀を超える経験があり、詩吟の霞会本部からは最高位の称号と、表彰を受けられました。現在も地元の仕事への出演の他、今年3月には水戸で開催される詩吟の全国大会にも出場されるとのことでした。

充実した日々を過ごされている一方で、昔を知る友人も徐々に少なくなり、かつての地元愛が薄れてきたように感じるのが寂しいそうです。(田所剛)

日高交流センター広場の「シダレザクラ」は昭和の後期に市民自治会が植えた桜で、日立紅寒、ソメイヨシノに続き時期的には一番遅く華やかに咲く桜です。しかし、当初7本あった樹も次第に勢いがなくなり3本が枯れ、残っている4本も元気がなく弱ってきている状態です。

シダレザクラの植えてある場所は、旧日高小学校の校庭だったところで、水はけを考慮し地中に砕石土砂が敷き詰められており、桜の根が張れないことや肥料不足等が樹勢の衰えの原因と推定され、専門家からは土壌の改良と施肥と適切な管理が大切と指摘されました。日高学区市民自治会では、日立市からの環境温暖化対策補助費を利用して、4本のシダレザクラの樹勢回復を願う造園業者による環境改善と施肥などの工事を、向こう3年間で行うことになりました。



樹勢回復の作業です

「シダレザクラ」の 樹勢回復工事が始まる

東連津

青少年育成部幹事
上妻 孝行

私は1月14日の鳥追い祭りで、例年と同じく豚汁づくりを担当しました。祭りは久しぶりに従来のスタイルで開催されましたが、これまで行われていた片付け後の反省会(懇親会)はありませんでした。会場設営から祭りの運営、片付けまで頑張った後、出来立てのお

頑張った後の お楽しみもぜひ

餅に舌鼓を打ちながら酒を酌み交わし、自分が作った豚汁を食べるひとは、祭りに参加する楽しみのひとつでしたので、少し残念でした。5月にはコロナの扱いも緩和される見込みなので、来年度はこれまで取りやめていた様々な行事が復活すると思いますが、頑張った後のお楽しみもあわせて復活してくれると嬉しいなと思います。

街をきれいに クリーンアップデー

2月12日に学区内の全世帯が参加して日高学区一斉に街を綺麗にするゴミ拾いの活動が行われました。指定の場所に集められたごみは、環境部員が回収し、交流センターで分別、トラック2台分になったごみを清掃センターに搬入しました。また当日は、クリーンア



集めたゴミの分別作業

編集後記

別れと出会いの春が来た。本来であれば明るい希望を感じる季節であるが、長引くコロナ禍や異国での戦争もあり、閉塞感の中で生活している人も多いのではないかと。地域の高齢化、少子化で自治会活動の衰退が全国的に進んでいるようだが、こういう時こそ自治会の存在意義があり、地域的情報を皆さんにお伝えできる広報紙でありたい。(田所)